

青年教育事業

本 館

青年学級	みんなの会
------	-------

- 目 的** 障がいのある人を対象に、自立に必要な知識・技能を学ぶ機会を提供するとともに、スポーツ、芸術、レクリエーション等を楽しみながら学級生同士の交流と親睦を図る。
- 日程・内容** 令和5年4月9日（日）から令和6年3月24日（日）までの間の毎月第2週及び第4週の日曜日。午後1時から3時まで。
活動の内容（実績）は、別紙のとおり
- 場 所** 公民館緑分館、公民館本館等
- 講 師 等** 矢野 典嗣さん（元都立小金井特別支援学校教諭）
ボランティアスタッフ 17人
- 募 集 方 法** 講師と面談を行い、定員に達するまで随時受け入れ
- 人 数** 定 員 50人
学級生 40人
延べ参加者 497人
- 担当企画実行委員** なし
- 担 当 職 員** 落合 兼二郎、八方 浩之
- 担当職員感想** 今年度当初はコロナ禍での実施となりました。障がいを持つ学級生や高齢となったボランティア・スタッフの感染防止を念頭に置き、講師と調整のうえ安心・安全な活動を心掛けたため、参加の皆様にはご不便やご面倒な対応を強いてしまいましたが、ご理解とご協力をいただき厚く御礼を申し上げます。
4年ぶりに宿泊を伴っての修学旅行を実施することができ、活動の制限が徐々に緩和されてきたことを感じる事ができました。
引き続き、基本的な感染防止策を講じて、みんなの会が楽しい時間になることを願って止みません。

令和5年度みんなの会年間活動実績

回次	開講日	活動内容	場所
1	4月9日(日)	開級式準備	学習室ABC 午後1時～3時
2	4月23日(日)	開級式準備	学習室ABC 午後1時～3時
3	5月14日(日)	オリエンテーリング	小金井公園 午後1時～3時(学習室ABC)
4	5月28日(日)	ボッチャ①	レクリエーション室 午後1時～3時
—	6月4日(日)	保護者会(バスハイク)	本館学習室B 午前10時～正午
5	6月11日(日)	俳句・謎解き	学習室ABC 午後1時～3時
6	6月25日(日)	美術(水彩画)	学習室ABC 午後1時～3時
7	7月9日(日)	ダンス&謎解き	レクリエーション室、学習室ABC 午後1時～3時
8	7月23日(日)	テーブルボウリング①	学習室ABC 午後1時～3時
9	8月5日(土)	サマーデイキャンプ	レクリエーション室、学習室ABC 午前10時～午後5時
10	8月6日(日)	サマーデイキャンプ	レクリエーション室、学習室ABC 午前10時～午後5時
11	9月10日(日)	ダンス&謎解き	レクリエーション室、学習室ABC 午後1時～3時
12	9月24日(日)	美術(水彩画)	学習室ABC 午後1時～3時
13	10月8日(日)	修学旅行準備(しおり作り)	学習室ABC 午後1時～3時
14	10月21日(土)	修学旅行	
15	10月22日(日)	修学旅行	
16	11月12日(日)	ミニ運動会	レクリエーション室 午後1時～3時
17	11月26日(日)	オリエンテーリング	小金井公園 午後1時～3時(学習室ABC)
18	12月10日(日)	望年会準備	学習室ABC 午後1時～3時
19	12月24日(日)	望年会	学習室ABC 午後1時～3時
20	1月14日(日)	美術(水彩画)	学習室ABC 午後1時～3時
21	1月28日(日)	書道・書初め	学習室ABC 午後1時～3時
22	2月11日(日)	ボッチャ②	レクリエーション室 午後1時～3時
23	2月25日(日)	俳句・なぞ解き	学習室ABC 午後1時～3時
24	3月10日(日)	テーブルボウリング②	学習室ABC 午後1時～3時
25	3月24日(日)	修了式	学習室ABC 午後1時～3時

緑分館

国際交流イベント

パーカッションのリズムが刻む 熱情のガーナ体験

目的 国際化の時代に、外国について学び、歴史や文化を知ることにより、その国に対する理解を深める。

日程 令和5年10月29日（日）午後1時から3時まで

内容 ガーナの著名なパーカッショニストを講師に招き、体験型講座を通してガーナの歴史や文化を学ぶ。

講師 Nii Tete Boye さん（ガーナの伝統的パーカッショニスト）

場所 公民館緑分館 レクリエーション室

募集方法 市報10月1日号、月刊こうみんかん10月号、ポスター、チラシ、市ホームページ、公民館X（旧Twitter）

対象 市内在住、在勤、在学の方

人数 募集50人（当日先着順） 参加者27人

担当企画実行委員 荻込 美津代、宮本 一

担当職員 山崎 敬広

参加者感想

- 自然素材の手作り楽器に歴史を感じて興味を惹かれた。
- 音楽に合わせた体操が楽しかった。
- ガーナの様子（歴史の話。資源があるのになぜ国が貧乏なのか）が聞けて良かった。
- ダンスと太鼓が楽しかった。
- すべて良かったです。
- 大変楽しかったです！
- 説明が楽しく面白かった。日本語もお上手。セッションが楽しかった。
- こんな近所でガーナ音楽を生で聴けて良かったです。
- 楽しかったです、ぜひまた！！
- 観客が拍手やダンスと一緒に踊れて楽しかった！！

緑 分 館

国際交流イベント

もっと知ろう！韓国

目 的 韓国の最近の情勢を社会経済や文化（音楽、観光等）を含めて学び、日本との関係についても考察する。講座をとおして韓国の魅力に触れ、理解を深める。

日 程 2月10日、2月17日、3月2日、いずれも土曜日、午後2時から4時まで 全3回

講 師 柳 在廣さん（神田外語大学准教授）

場 所 公民館緑分館学習室A・B・C

募集方法 市報1月1日号、月刊こうみんかん1月号、ポスター、チラシ、市HP、公民館ツイッター
往復はがき、またはメール
申込多数のときは抽選

対 象 市内在住、在勤、在学の方

人 数 募集 30人
応募 23人
受講 23人（男性 13人、女性 10人）
延べ参加者 57人

担当企画実行委員 大蔵 芳夫、苅込 美津代

担当職員 林 文男

参加者感想

- ソウルの町の様子や韓国の現状を柳先生から大変分かりやすくご説明いただき、韓国についての理解が深まりました。「もっと知ろう韓国」のセミナーを定期的に行ってほしいです。
- 韓国の歴史を取り入れてほしかった。
- 韓国についてドラマから興味を持ち始めたタイミングでこの講座を知り、すぐに申し込みました。先生の分かりやすい説明で、現在の韓国について知識を深めることができました。
- 大変興味深く拝聴いたしました。夢のような現実にすっかり遅れをとっている自分を何とか少しでもデジタル化を取り入れたいと思いました。
- 思った以上に有意義で、大変良かった。

緑 分 館

青年教育事業

生活日本語教室

目 的 市民と市内及び近隣在住の外国人がお互いに理解を深めるための国際交流事業の一環として、日本語の日常会話に不自由している外国人に対して、ボランティアスタッフが市民生活に必要な初歩の日常会話の学習を支援するとともに、市民と外国人学習者との交流を図り、日本文化を理解してもらうことを目的とする。

日程・内容 毎週土曜日（年間42回）、日常生活に必要な日本語学習の支援、年中行事等を通じた各種イベント

時 間 午前10時30分～正午

募集方法 市ホームページ、チラシ、市民課外国人窓口にて案内

参加人数 (1) 学習者 1,010人
(2) 体験者 82人
(3) 生活日本語教室ボランティアスタッフ 1,035人
合計 2,127人

参加者の出身国 アメリカ、ベトナム、スペイン、インド、タイ、ミャンマー、バングラデシュ、エジプト、ケニア、イラク、アルゼンチン、ガーナ、台湾 など

年間行事 1月 新年会

担当職員 山崎 敬広

貫井北分館

青少年教育講座

若者による自主講座 「ゴム動力で飛ばす紙トンボを作ろう！」

目 的	牛乳パックを使った、ゴム動力で飛ばす紙トンボを作って遊ぶことで、科学的知識への関心を高め、参加者間の交流を促す。また地域の大学生が自主講座として企画・実施することで、チームワークの大切さや地域との交流を深める。
日 程	8月6日（日）午後2時から4時まで
内 容	持参した牛乳パックと、輪ゴム、ストロー、ビーズ、針金等を使用して、ゴム動力の紙トンボを作成し、遊ぶ。
講 師	東京学芸大学 サークルSTEAMer 代表 高橋 凜子さん
場 所	公民館貫井北分館 創作室
対 象 者	市内在住・在学の小学3年生以上6年生
募集方法	市報こがねい7月1日号、ポスター・チラシ、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター 往復はがきまたはメール
人 数	募集12人 応募4人 受講4人(男性3人、女性1人)
企画実行	TGUものづくり魅力発見隊（田中美結、成島有楽）
担当職員	伊藤 智代子
担当職員感想	学年を3年生以上6年生と限定したせいか、応募者が定員に達しなかった。武蔵野大学FSインターン生2人が参加し、企画・実施の大学生と立場は違うが公民館の意義や、公民館の講座と学校の授業の違いなど、情報交換をしている様子が見受けられた。
参加者感想	○楽しかったところは、一から紙トンボを自分で作ったり、飛ばして何回でよく飛ばすかの研究が出来たところです。 ○紙トンボがとんだところが楽しかったです。
企画者感想	○子どもが自分でやりやすい方法をみつけていた場面を見て、良かったなど感じた。なごやかな雰囲気の中で行うことができて良かった。 ○ひとつの行程を伝えるのが難しく、自分がどこまで踏み込んでよいか分からず少し苦労した。 ○自分の中で、小学生を小さく何も知らない子どもという風に思っていたが、それ以上に大人で、小学生との関わり方を考えさせられた。

貫井北分館

青少年教育 講座	若者による自主講座 「お芝居『さちどんどん』をみて「老後」を考えよう！ ～助けてと言えた時が、助かった時～」
目 的	「老後」だけでなく先の見えない問題に向き合うこと、他人とつながることの難しさをテーマとした創作芝居『さちどんどん』を、様々な世代で企画・実施し、上演後「おたがいさまのまちづくり」について、観覧者とともに話し合い共に考える。
日 程	11月26日（日）午後2時から4時まで
内 容	第一部はお芝居『さちどんどん』を上演、第二部は観覧者の方々と「あなたの困りごとカード」について対話をし、「助けて」と言えることや「お互いさまのまちづくり」について考える。
場 所	公民館貫井北分館 北町ホール
対 象 者	市内在住・在勤・在学の方
募集方法	市報こがねい11月1日号、ポスター・チラシ、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館X（旧ツイッター） 電話、メールまたは窓口
人 数	募集40人 応募30人 受講25人(男性5人、女性20人)
企画実行	小金井地域ドラマ集団「花のように」（齋木柊志、小泉玲雄、高橋摩耶、桑森あき子、吉田栄治、尾上エミ子）
担当職員	伊藤 智代子
担当職員感想	企画実行は、東京学芸大学・大学院生、小金井みなみ地域包括支援センター職員、企画実行委員など20歳代から80歳代が対話を重ね実施。また小金井にし地域包括支援センター職員がサポートとして協力。
参加者感想	○第一部のお芝居はちょっと難しかった。第二部の話し合いは有意義だった。 ○最初メッセージ性が感じられたのだけれど、内容の難しさが勝っていました。結局「答え」などない、という考え方が思っていた気がします。 ○第二部の異年齢の方たちとのお話が楽しかった！です。小人数のグループに分けが、お一人お一人の表情をみながらできました。
企画者感想	○ふだん大学かバイト先でしか人と関わる機会がなく、様々な考え方、年齢層の方と深くかかわることができ、それが良かったと思います。 ○自分がやったことないことにチャレンジできた。新しいコミュニティにいるという満足感。新しい出会いがあった。自分ができること・できないことを新しく知ることができた。

貫井北分館

青少年教育講座	若者による自主講座 「～森に関するクイズに正解してビンゴを目指せ～ 森のガラポンビンゴ！」
----------------	--

目 的	楽しくクイズで森や間伐について学び、木製品を作りながら、学年や学校を超えた交流で親睦を深める。また若者当事者が自主講座を企画・実施を通してチームで協力・連携することの意義を学ぶ。
日 程	1月28日（日）午前10時から正午まで
内 容	森のガラポンビンゴシート（9マス）に1から30までの自分の好きな数字を書き込み、木製のガラポンを回してビンゴと森に関するクイズを楽しむ。景品は間伐材から作成したキーフォルダ、2回目の景品は参加者がメモスタンド、カレンダー、マグネットの3種類から選び作成。
講 師	宮村 連理 さん（東京学芸大学附属小金井中学校 教諭）
場 所	公民館貫井北分館 創作室
対 象 者	市内在住、在学の小学生
募集方法	市報12月15日号、ポスター・チラシ、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館X（旧ツイッター） 多数抽選 メール
人 数	募集15人 応募35人 受講9人（男性5人、女性4人）
企画実行	GTEラボ ガラポンビンゴチーム（東京学芸大学附属小金井中学校 2年生6人、1年生2人）
担当職員	伊藤 智代子
担当職員感想	市報だけでなくチラシを近隣の小学校に児童数配布後、応募が増えキャンセル待ちも含めて抽選。開催直前に感染症流行し、前日からの欠席者6人のため9人で実施しました。
参加者感想	○いろいろ森や木のこと、森のはたらきも学べたことが良かった。 ○クイズに答えたりビンゴをしたり、工作をしてとても楽しかった。
企画者感想	○小学生たちが笑顔で楽しんで作ってくれたことがうれしかった。最初は私も小学生たちも緊張した感じだったけれど、だんだんとクイズやビンゴをしていく中で打ち解けていくことができた。 ○昨年度よりも段取り力が上がったと思います。二年目ということもあり、何が必要なのかがすぐにイメージできるようになりました。 ○学校でやるよりも公民館でやる方が、自分たちが主催という実感がある気がした。また材料などもより慎重にチェックするようにした。

貫井北分館

青少年教育講座	若者による自主講座
	「森の縁日～お祭り屋台で木とふれあおう！～」

目 的	森での間伐活動などを縁日の屋台の様式で楽しみながら学び、学年や学校を超えた交流で親睦を深める。また若者当事者が自主講座を企画・実施を通してチームで協力・連携することの意義を学ぶ。
日 程	1月28日(日) 午後2時から4時まで
内 容	お祭りの屋台形式で、森の間伐活動について学び、射的で木を伐採して森にひかりをとどけること、森のはたらきをパズル釣りや、光玉を土の下に届けるボードゲームなどを通して、森での間伐活動を知る。
講 師	宮村 連理 さん(東京学芸大学附属小金井中学校 教諭)
場 所	公民館貫井北分館 創作室
対 象 者	市内在住、在学の小学生
募集方法	市報12月15日号、ポスター・チラシ、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館X(旧ツイッター) 多数抽選 メール
人 数	募集15人 応募37人 受講13人(男性6人、女性7人)
企画実行	GTELAB 森の仲間たち(東京学芸大学附属小金井中学校2年生7人)
担当職員	伊藤 智代子
担当職員感想	市報だけでなくチラシを近隣の小学校に児童数配布後、応募が増えキャンセル待ちも含めて抽選。開催直前に感染症流行。当日キャンセル1人、無断欠席1人、13人で実施。
参加者感想	○自分たちで工作をして作る場所が楽しかった。 ○鉄砲がとくに楽しかった。パズルも楽しかった。ぜんぶ楽しかった。 ○森にひかりをとどけよう。
企画者感想	○小学生たちが楽しい！と言ってくれたり、森のサイクルについて自主的に知ろうとしてくれてすごくうれしかった。 ○はじめて年下に講座をして、私たちの感覚で物事をすすめるだけでは理解してもらうことが難しいっていうのに気がつけたので、それが良かったかなと思います。 ○企画を考えている時は、不安でいっぱいだったが、実施することでどんどん案が浮かんできて楽しかった。 ○学校ではコミュニケーションとりやすかったりするけど、公民館では自分たちの自由にできない分、難しかったです。でも講座が終わった今、達成感がすごく良かったです！！

貫井北分館

青年教育事業	青少年教育講座 若者による自主講座 「笑って心も体もすっきり！農工大落研の 落語口演と落語講習会」
---------------	--

目 的 江戸時代から現在まで伝承される話芸の落語の基本を楽しく習得しながら、大学生と地域の方々と世代間交流を促進する。また若者当事者が企画・実施を通してチームで協力・連携することの意義を学ぶ。

日 程 令和6年3月10日（日）午後2時から4時まで

内 容 落語を聴いた後、せんすや手ぬぐいなどの小物の使い方や、落語の所作や小噺を覚えた後、落語家になったつもりで小噺を披露する。

場 所 公民館貫井北分館 生活室A B

募集方法 市報こがねい2月15日号、ポスター・チラシ、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館X、小金井市立第四小学校および本町小学校全児童数配布、申込順 電話、メールまたは直接

対 象 者 市内在住・在勤・在学の方

人 数 募集16人 応募4人 受講4人（男性2人、女性2人）

企画実行 坂本美桜、飯島隆斗、ほか3人（東京農工大学 落語研究会）

担当職員 伊藤 智代子

担当職員感想 参加者は40歳代から80歳代4人。講座の中で、他の参加者の自己紹介に対して不適切な発言と指摘し、職員がその場で注意するようにご意見をいただきました。今後は、その場で毅然とかつ柔軟に対応したいと思います。

参加者感想 ○イベント内容はとても良い。もっとたくさんの人に知ってもらえたらと思った。学祭、見に行きたいです。楽しみにしています。
○“客”が少ないのに、誠実にかつ熱心にやってくださり、ありがとうございました。小噺をやらせるというのはいいアイデアですね。また、“客”との語らいも積極的でうれしかったです。

企画者感想 ○色々な方と交流できた。楽しんでもらえたのがうれしかったし、やりがいを感じた
○想定していた段取り通りできなかつた。もう少し丁寧に考えた方がいいと感じた。司会進行として力不足だったと感じた。
○楽しんでもらえたことが活動へのモチベーションにつながった。自分たちで会を進行することの楽しさや難しさを学ぶことができた。

貫井北分館

青少年教育講座	若者による自主講座 「法政大学将棋部が教える将棋体験教室」
----------------	--

目 的 将棋の基本を楽しく習得しながら、大学生と世代間の交流を促進する。また、地域の大学生が自主講座として企画・実施することで、チームワークの大切さや地域との交流を深める。

日 程 令和6年3月23日（土）午後2時から4時まで

内 容 第10回貫井北センターまっりの来場者が誰でも参加でき、初心者には将棋を教え、また将棋経験者には対局を楽しんでいただく。

場 所 公民館貫井北分館 生活室A B

募集方法 市報こがねい3月1日号（第10回貫井北センターまっりのイベントの一環として掲載）、ポスター・チラシ、貫井北センターHP、貫井北分館X、当日直接会場へ

対 象 者 どなたでも

人 数 参加者12人（男性7人、女性5人）

企画実行 法政大学 小金井将棋部（小川純貴、他6人）

担当職員 伊藤 智代子

担当職員感想 参加者は5歳の女の子から70歳代男性と幅広い世代が将棋を楽しみました。漢字が読めないお子さんには「どうぶつしょうぎ」（写真参照）や駒の動きを分かりやすく図にしたものなどを用意し、将棋のやり方や楽しさを教える工夫が伺えました。

企画者感想

- 昨年度より上手に教えることができたので良かった。自分が楽しめたので良かった。
- 年代問わず多くの方々が将棋を楽しんでくださった。その様子をうかがえたこと、またその一助となれたこと。
- どのように普及するかという点を自分で考える機会になった。
- ふだんとは異なる年代の人と将棋をすることができて良かった
- 老若男女問わず、将棋の魅力を教えることができた。
- 老若男女様々な方が来てくれて嬉しかった。特に将棋に興味を持ってくれた子が、そこそこいたのがこちらもやりがいを感じた。
- 地域の方と触れ合う機会は今もないため、貴重な経験になったのではないかと思います。

貫井北分館

青少年教育講座	世代間交流の推進 プラネタリウム解説員が語る七夕物語 ～星に願いを～
----------------	---

目 的 プラネタリウム生誕100周年を記念し、七夕にまつわる話題を通して天文・宇宙分野への関心を高め、理解を深める。またプラネタリウム解説員の講師と参加者の交流、学校や学年を超えた参加者同士の交流を深める。

日 程 6月25日(日) 午後2時から4時まで

内 容 7月7日の「七夕」のエピソードなど星空、天文・宇宙分野への関心を高め、生誕100年を迎えるプラネタリウム観賞へとつなげる。また、講師と参加者の交流、学校や学年を超えた参加者同士語り合い、質疑応答を通して交流を深める。

講 師 ステラ・マリーノ 坪内重樹さん(プラネタリウム解説員)

場 所 公民館貫井北分館 北町ホール

参 加 費 無料

募集方法 市報6月1日号、チラシ、ポスター、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター 多数抽選 往復はがき、Eメール

対 象 市内在住・在勤・在学の小学5年生以上25歳までの方

人 数 募集 20人 応募 17人 受講 15人(男子6人、女子9人)
延べ参加者 15人

担当企画実行委員 尾上 エミ子、本多 隆志

担当職員 伊藤 智代子

担当職員感想 講師は、小学校低学年でも分かりやすい説明で、参加者があきないようにクイズを出し、また質問や感想にも臨機応変に対応し、対話を重ねながら学び合いを深めました。社会教育実習生 今津さん実習。

参加者感想 ○いろいろな七夕の物語や、星座・星のことが知れて楽しかった。あと、プラネタリウムが特におもしろい。
○先生のおすすめのプラネタリウムにいつか行ってみたいです。
○いろんな星のことを知れたから、友だちに話せるかも。
○プラネタリウムや七夕の秘密が知れました。

貫井北分館

青少年教育 講座	世代間交流の推進 木育ガールキキちゃんの飾りたくなる割りばし工作 ～木育×STEAM教育～
---------------------	--

目 的 間伐材を使った工作を通して、木材の「良さ」や「利用の意義」を木育として学び、木の大切さや環境について考え、講師との交流や、学年や学校を超えた参加者間の交流を促進する。

日程・内容

回	日時	内容
1	7/15 (土) 午前10時から正午	ビー玉ころがしを作ろう！
2	7/15 (土) 午後2時から4時	観覧車を作ろう！

講 師 前田 彩世さん (STEAM インストラクター、一般社団法人東京学芸大 E x p l a y g r o u n d 推進機構 木育研究所代表)

場 所 公民館貫井北分館 創作室

募集方法 市報6月15日号、ポスター・チラシ、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター 多数抽選 往復はがきまたはメール

対 象 市内在住・在学の小学生

人 数 募集 各回8人 応募 1回目 15人、2回目 15人
受講 1回目15人 (男9人、女性6人)、2回目10人 (男4人、女6人)

担当職員 伊藤 智代子

担当職員感想 感染症対策も5類に入り人数制限がなくなったため、兄弟の申込にも配慮し、定員を増やし対応。東京学芸大学生4人および社会教育実習生1人が参加者をサポート。

参加者感想

- 工場などで処分されてしまう割りばしを使って、ビー玉ころがしを組み立てて遊ぶのが良かったです。
- 使うことができなくなった割りばしを工作して、使うことができ、楽しかった。特に、自分で好きなように組み立てることができ、自分だけのオリジナルビー玉ころがしができたことが楽しかった。
- 知らない人とできて楽しかった。
- グルーガンでくっつけるところが楽しかった。
- 観覧車をつくるのが楽しかったです。細かい所をしっかりと教えてくれるのが良かったです。大変な部分を手伝ってくれたのが良かったです。

貫井北分館

青少年教育 講座	世代間交流の推進 ちょっとスペシャルなフラワーアレンジメント
---------------------	---

- 目的** 講師の花屋さんから花の流通や花の名前、おうち時間を楽しむフラワーアレンジメントを学び、講師との交流や、学校や学年を超えた参加者間の交流を推進する。
- 日程** 7月31日（月）午前10時から正午まで
- 内容** 花の話、選び方などの説明を受け、日頃の生活の中で、花を楽しむ方法やフラワーアレンジメントの基礎を学ぶ。最後に、フラワーアレンジメントを体験した感想を発表してもらい、参加者の交流を深める。
- 講師** 森 このみさん（Flower & PETAL 代表）
- 場所** 公民館貫井北分館 創作室
- 参加費** 1,000円（材料費、花器も含む）
- 募集方法** 市報7月15日号、ポスター・チラシ、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター 多数抽選 往復はがきまたはメール
- 対象** 市内在住・在勤・在学の中学生以上25歳くらいまでの方
- 人数** 募集 8人 応募 9人 受講 8人（男性1人、女性7人）

担当企画実行委員 塚田 昭子

担当職員 伊藤 智代子

担当職員感想 小学1年生から高校3年生までの8人が参加。ひまわりや菊など黄色い花を使用し、各自が独創的なフラワーアレンジメントを楽しみました。

参加者感想 ○昨年も参加しましたが、前とはちがうお花でできてとっても楽しかったです！！
○実際にフラワーアレンジメントの時間があって、すごくよく時間を使えました！そして先生が優しかったです。家のリビングに飾ります！
○初めて参加したのですが自分なりに良い作品が作れたかなと思います。



貫井北分館

青少年教育講座	世代間交流の推進 はじめてのマンガイラスト講座
----------------	------------------------------------

目 的 中高生に人気のマンガやイラストの技法や漫画家の仕事について、漫画家でもある講師から学ぶ。また参加者同士、学校や学年を超えた交流を促進する。

日 程 8月2日（水）午後1時から5時まで

内 容 マンガ制作の日程、流れなどからマンガ制作関連の仕事について知る。また、制作上で必要なストーリー、テーマ、キャラクターなどの説明後、実際の描き方などを体験する。

講 師 柚木 元さん（東京工学院専門学校元講師、『ハヤテのごとく！』畑健二郎先生の元チーフアシスタントほか）

場 所 公民館貫井北分館 学習室CD

募集方法 市報7月1日号、チラシ、ポスター、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター、小金井市立中学校全5校の全生徒チラシ配布多数抽選 往復はがきまたはメール

対 象 市内在住・在勤・在学の中学生以上25歳くらいまでの方

人 数 募集 16人 応募 11人 受講 9人（男性1人、女性8人）

担当職員 伊藤 智代子

担当職員感想 参加者は、中学1年が5人、2年が3人、高校3年が1人。事前に部活の都合で2人がキャンセル、また当日も部活で遅れての参加が1人、夏休みでも忙しい中学生の様子が伺えました。また高校3年生は、受験勉強の息抜きで参加したと話してくれました。チラシは東京学芸大学生 今井ゆたかさんと原雫さんが、講座の主旨を理解して作成。

参加者感想

- 顔の描き方や横顔の描き方などよくわかりました。ありがとうございます！！
- ネットだと情報が錯綜していてハードルが高かったのが、描き方を教えてもらってためになった。
- 最期にアドバイスなど、色々聞けて嬉しかったです。普段、あまり何も考えず絵を描いていたので、基礎からできてとても楽しかったです。
- 今日のマンガイラスト講座、すごく勉強になりました。ありがとうございます。

貫井北分館

青少年教育 講座	世代間交流の推進 防災食を活用！作って楽しむ きたまちキッチン
---------------------	--

目 的 防災食（ローリングストック）を工夫した簡単で美味しい調理法を学ぶ。また、防災食と身近にある食材を工夫することを考え作ることで、学校や学年を超えた交流を講師と参加者間が深める。

日 程 11月3日（金）午前10時から12時まで

内 容 防災食のアルファ米と粉末スープにときたまごでスープごはん、常温でも固まる寒天を使用したフルーツヨーグルト寒天をつくる。また非常時に使えるように、フルーツ缶詰の開け方、カセットコンロの使い方、ローリングストックの使い方や、非常食に必要な物などを考える。

講 師 潮田 彩さん（専門調理師、もぐもぐ子ども調理室代表講師）

場 所 公民館貫井北分館 生活室A・B

参加費 500円(材料費)

募集方法 市報10月1日号、ポスター・チラシ、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター 多数抽選 メール

対 象 市内在住・在学の小学生の方

人 数 募集 12人（多数抽選）
応募 19人 受講 15人（男性7人、女性8人）

担当職員 伊藤 智代子

担当職員感想 多数申込があり、講師と相談し定員を16人に増やし対応しました。防災食のアルファ米とライスクッキーは、市地域安全課より提供いただきました。今回、ライスクッキーは使用しなかったため、参加者にローリングストックとして持ち帰ってもらいました。

参加者感想

- 自分も、この非常食などを食べていたら、もしもの時も食べられるし、ふだんから食べていたら、冷蔵庫、冷凍庫などを使わなくて、節約にもなりそう！！家でもつくりたいなと思います。
- 少し大変だったけど、みんなで協力してつくることができて楽しかったです。
- スープごはんとフルーツ寒天が、予想以上においしくて、参加して良かったなあと思いました。楽しかったです。

貫井北分館

青少年教育講座	世代間交流の推進 「きたまちキッチン パティシエのお菓子教室」
----------------	--

目 的 小中学生の人気職業のパティシエが先生となってお菓子づくりを教え、つくって味わう楽しさ、および職業としてのパティシエの話や、学校や学年を超えた交流を推進し、家庭や学校とは異なる地域の居場所や仲間づくりを促進する。

日 程 2月4日（日） 午前10時から12時まで

内 容 チョコレートのテンパリング方法、リスフレ・ロイヤルティーヌ・ピーナッツの計量、混ぜ方や成型を学び、チョコレートクランチを作る。

講 師 水野 智棋さん（シェフパティシエ）

場 所 公民館貫井北分館 生活室A・B

対 象 者 市内在住・在勤・在学の小学生以上25歳くらまでの方

募集方法 市報1月1日号、ポスター・チラシ、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館X（旧ツイッター） 多数抽選 メール

人 数 募集16人 応募58人 受講15人(男性6人、女性7人)

企画実行委員 塚田 昭子、森 千尋

担当職員 伊藤 智代子

担当職員感想 小学1年生から20歳まで58人が応募し、キャンセル待ち5人を含めて企画実行委員が抽選を実施。発熱で当日キャンセル1人のため、15人で実施。4つのグループに分け、作業を通して助け合い、参加者同士が学年や学校を超えた交流を楽しみました。

参加者感想

- わかりやすく教えてくれて「テンパリング」できたことがなかったけど、教えてもらってこれからは、もしチョコレートをつくる時に気をつけようと思いました。
- となりの人といっしょに作ったので、一人ではなかったこと、となりの人は積極的で、話せて良かった。
- おいしいものを、自分で作って食べるのがはじめてだったので楽しかった！
- ためして食べたときにおいしかったのでびっくりしました。しっかりと教えてくれることが良かったです。これからもパティシエのケーキなどを作りたいです。（またこのイベントを）

貫井北分館

青少年教育 講座	健全育成事業 アニメ de トーク～「異世界アニメ」へダイブ！～
---------------------	---

目 的 アニメを通して文化や社会状況等の " 今 " を見る。また、人の好みや楽しみ方など、好きなどころから生き方やその人らしさを見出し、多様性の理解に繋げる。

日 程 8月9日（水）午後2時から4時まで

内 容 青少年に人気の高い「異世界アニメ」をテーマにしたアニメを語り合い、参加者みんなで「こんな異世界があったらいいよね」という理想の異世界を話し合い、自分にしか描けない異世界について考える。

講 師 小西 公大さん（東京学芸大学 准教授）

場 所 公民館貫井北分館 学習室C・D

募集方法 市報7月1日号、チラシ、ポスター、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター、小金井市立中学校全5校の全生徒チラシ配布、近隣学校へのチラシ配布、館内POP設置

対 象 市内在住・在勤・在学の中学生以上25歳までの方

人 数 募集 16人 応募 4人 受講 4人（男性1人、女性3人）

担当職員 伊藤 智代子

担当職員感想 チラシは、東京学芸大学美術選修2年生の今井ゆたかさんと原田滯さんが、講座の主旨や対象者をイメージして作成。武蔵野大学FSインターン生2人が参加。中学2年生から大学院生が学年や学校を超えて、対話を重ねました。

参加者感想

- とてもおもしろい講座だった。今までは何も考えず、見たり読んだりしていたが、今回の講座を受けて、見方が少し変わったなと思った。周りもすばらしい意見をたくさん持っていてとても参考になった。先生の補足説明もあって理解しやすく、意見もしやすかった。
- 私は外国人ですが、色々単語を説明してくれてありがとうございます！「異世界」の概念とか、よく勉強になりました。物語の発想もよくできました。
- 異世界アニメはあまり触れてこなかったけれど、ほとんど固定化された設定から、いくつもの作品が生まれていることに驚いた。また、その設定からはずれて異世界を考えることは楽しかった。
- とても深いところまで改めて考える機会があり、大変楽しかったです。

貫井北分館

青年教育 事業	青少年教育講座 健全育成事業 「〈推し〉 de トーク～なぜ〈推し〉に心ひかれるのか。～」
------------	--

目 的 参加者それぞれの〈推し〉を語り合う。また、人の好みや楽しみ方など、好きなところから生き方やその人らしさを見出し、多様性の理解に繋げる。

日 程 3月17日（日）午後2時から4時

内 容 参加者それぞれの「推し」を語り合い、なぜ「推し」に心ひかれるのか、また「推し」とは何かを話し合い、参加者間で想像・創造していくワークショップ。

講 師 小西 公大さん（東京学芸大学 准教授）

場 所 公民館貫井北分館 学習室C・D

募集方法 市報2月15日号、チラシ、ポスター、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館X、小金井市立中学校全5校の全生徒チラシ配布

対 象 市内在住・在勤・在学の中学生以上25歳までの方

人 数 募集 16人 応募 7人 受講 7人（男性2人、女性6人）

担当職員 伊藤 智代子

担当職員感想 チラシは、東京学芸大学3年の高橋摩耶さんが、講座の主旨や対象者をイメージして作成。中学3年生から20代7人が「推し」について省察し、また参加者と対話を重ね世代間交流を楽しみました。

参加者感想

- 自分のことをふりかえりつつ、色々な方の推しのはなしをきけて良かったです。話すことも共有できることも楽しかったです！
- 深い話ができ、とても楽しかったです。また次回も似た企画があればよろしくお願いします。ありがとうございました。
- 「推し」について語る場があまりなかったので楽しかったです！またこのような機会があれば、また来たいなと思いました。
- 推し活をゆるやかに進めつつ、新しい趣味も広がっていきます。
- 色々なジャンルの「推し」を、トークを通じて知ることができ、「推し」そのものを文化学的に考えることができました。「推し」が無くなったなら？「推し」ができる以前は？など、後半のトークは多世代できて楽しかったです。



貫井北分館

青年教育事業	環境づくり 環境づくり 「文化祭・学園祭ポスター掲示」
--------	--------------------------------

目 的 地域にある高校や大学など教育機関の文化祭・学園祭のポスターを掲示し、学生の進路選択、地域住民と教育機関の情報交換の促進、および公民館と教育機関の連携につなげる。

日 程 8月21日（月）から11月30日（木）まで

内 容 文化祭や学園祭のポスターを掲示

場 所 公民館貫井北分館

担当職員 伊藤 智代子

担当職員感想

- ・「文化祭・学園祭ポスター募集」のポスターは、武蔵野大学フィールド・スタディーズ実習生 2人が作成。
- ・市内および近郊の高校、大学、専門学校から合計9校が協力。
- ・フリースペース利用者には受験勉強をしている学生も多く、学生の進路選択、地域住民と教育機関の情報交換の促進につながったと思われる。



貫井北分館

青年教育事業	環境づくり しるべお守り・きたまちだるま
--------	----------------------

目的 公民館貫井北分館のフリースペースを利用している中学生以上の若者世代に、普段から公民館で一生懸命に学習に取り組んだ自分自身を思い出し、定期テストや受験などの励みにしてもらい、地域の居場所と感じてもらえるための環境づくりの一環として実施。

日程 1月5日（金）から15日（月）

内容 若者コーナーのキャラクター「キタはかせ」のゴム印を表紙にした「しるべお守り」と折り紙で作成した「きたまちだるま」を50セット配布（無くなり次第終了）し、定期テストや受験などの励みにしてもらう。

場所 公民館貫井北分館 階段降口

担当職員 伊藤 智代子

担当職員感想 「しるべお守り」と「きたまちだるま」の配布は、大学入学共通テスト（1月13日、14日）前に実施し、無くなり次第終了としました。フリースペースには、学生から社会人の方などの利用が見受けられ、教科書や問題集などを広げて学習に励んでいる姿を利用者お互いが見かけることで、個々が頑張ることを共有しているかのように感じました。

フリースペースは、9時から22時まで開館時間内は利用可能で、予約なしに利用できる席が70席あります。施設利用者の待ち合わせや話合い、小学生がカードゲームなどを楽しむ場、乳幼児が遊べるキッズスペースもあり、様々な世代が、自由に交流ができるロビー的な要素があります。利用者と様々な形態によるコミュニケーションツールを利用し、居場所としての心地良さだけでなく、学習を支え、個々の自己実現を支援する学び合いの場、また家庭や学校だけでない安心して過ごせ、また保護者の方々からも安心して利用をすすめられる地域の居場所として、環境づくりに努めたいと思います。



「きたまちだるま」と「しるべお守り」
個装する前の様子



「きたまちだるま」 「しるべお守り」

